

令和2年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・**最終**)

郷原 中学校区 校番 6 学校名 郷原小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
*** 働き方改革	教職員が自らの意欲と能力を發揮できる教育環境の整備	○長時間勤務の削減	<p>○時間外勤務が月80時間を超えない教職員の割合は、年度当初61%であったが、1月末までで84%になった。会議の精選と参加者の限定、日々の声かけ等が効果的であったと考えられる。</p> <p>○児童と向き合う時間が確保できていると感じる教員の割合は、12月末までで60%である。日課の工夫をしているものの時間外勤務の目標を昨年度80時間から今年度45時間としており、その分多忙感が払拭されていないと考えられる。</p>	<p>○数値はよくなったものの目標を達成することはできていない。今後も、教職員を励ましながらかけ等につけて取り組んでいく。その際、職員の健康を第一に考え、日々の生活の質や教職人生を豊かにすることが自らの人間性や創造性を高め、そのことが子供たちに対する効果的な教育活動につながることを、繰り返し伝えていくようにする。</p> <p>○今年度は、コロナウイルス感染症対策として日課・時程表の時間を早め、児童を早く下校させるようにしているが、教職員の働き方改革にも好評であるので今後続けていきたい。さらに多忙感を払拭するために、教育委員会への人員確保の要望を続けるとともに、さらなる業務の精選を行う必要もある。</p>
*** 確かな学力	主体的に学習に向かい高まる子供を育てる。 貫	○基礎学力の向上 ○思考力の向上	<p>○学期末テスト(国語・算数)において、30%未満の児童の割合は、国語2%(5人)算数7%(14人)であった。業者の活用力を見取るテスト(国語・算数)において、30%未満の児童の割合は、国語3%(9人)算数8%(21人)であった。</p> <p>○全体としては、1学期に比べると、両テスト両教科とも30%未満の児童の割合が減ってきているが、学年ごとに見ると増えている学年もある。</p> <p>○低学年(3年生以下)では、活用力を見取るテストの30%未満の児童は少ない(国語1人算数2人)が、30~50%の児童の割合は、国語科6人算数科で12人も見られる。</p> <p>○振り返りの量と質の向上について、量が向上した割合は82%、質が向上した割合は48%であった。質の向上について、割合が低くなっている。</p>	<p>○活用力を見取るテストに関しては、文章が多く、じっくりと最後まで読むことができていない児童や、算数科では、式が何を表すのかが理解できていない児童が多いという課題が見られる。問題文が長い活用力が求められる問題に、低学年から繰り返し取り組んでいく必要がある。</p> <p>○学期末テスト、活用力を見取るテストとも算数科の方が30%未満の児童の割合が高くなっている。式が表す意味を考えさせることや、文章を読んで理解したことを図に表させることなどを、普段の授業から意識して取り組んでいく。</p> <p>○振り返りの質を向上させるために、必要なことを研修を通して確認した。振り返りの視点について教師も児童も共通認識をすること、視点を基に相互評価させることなどが挙げられた。全体で共通した視点を明確にし、学年に応じた振り返りの在り方について具体的に検討していく。</p>
** 豊かな心	人との関わりから学び高まる子供を育てる。 貫	○あいさつを中心に、目標をもち、計画を立て、頑張りきることができる。	○生活目標を達成したクラスは76%で達成感をもつことができた児童は94%であった。8割の日数を達成できたクラスは少ないのは怠っているのではなく、意識が高く、目標設定を高くした結果だと考えている。達成感をもつことができた児童は前回のアンケートに比べ、向上している。実際、あいさつにおいて、学校全体でみると向上したように感じる。	○あいさつについて向上が見られているので、これを維持、さらに向上させる取組が必要と感じる。また、児童から教師へのあいさつだけでなく、児童から児童、児童から地域という場面のあいさつを増やしていく取組を考えていきたい。
*			<p>○「NOメディアDAY」において、全体の達成度は回数を重ねるごとに上がった(76%→79%→81%)。日頃から課題のある児童、クラスがこの取り組みにおいても、カードを提出しない、やらないといった傾向がある。</p> <p>○体力づくりの宿題は、すべての学級で継続して出すことができた。また、体育科の授業の導入でも取り組むことができた。コーディネーショントレーニングの</p>	<p>○睡眠やメディア使用に関しての集団指導や実施後の評価は、今後も続ける。課題のある児童への指導についても、担任と連携して取り組む。</p> <p>○来年度は、体力アップを図れるような遊びを紹介し、休憩時間に取り組めるようにしていきたい。</p>

健やかな体

自らの健康を
考えて行動し、
高まる子供を育
てる。



○進んで健康・
体力づくりに努め
る。

「ラディアン」「くねくね運動」は年間を通して継続して
行った。その結果体力の向上がみられた。また、昨年
度と同一の内容にすることで、児童や教員が共通理
解を図れたことが効果的であったと考える。

○重点3種目においての2回目の結果は、長座体前
屈とソフトボール投げは、男女とも全学年が県平均値
を上回った。柔軟性を強化するコーディネーショント
レーニングの効果があったこと、測定前の練習期間
が確保ができていたものとする。50m走において
は、男子はすべての学年、女子は4つの学年が県平
均値を上回った。体感を鍛える体力づくりの宿題を継
続していることで効果があるがあったと考える。

○体力づくりの宿題は引き続き継続して
出す。

○体育の授業の最初に体カアップが図
れるコーディネーショントレーニングを
全学級で実施する。

○年間を通して、「運動のあしあと」を活
用し、自分の記録の伸びを意識して運
動に取り組むことができるようにする。